大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

桜堤
三丁目にて
no.65

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、小金井公園の東端にある「桜堤なかよし広場」で描いたものである。普段は人の数が少ないようだが、休日ともなれば、多くの親子連れが訪れ、それなりの賑わいを見せる広場だと聞いている。

この広場には、蒸気機関車の遊具が設置されているが、それを写生している時、ふと六十年ほど前に桐生と足尾を結ぶ国鉄の足尾線で、私が機関車の缶焚きとして乗務していた頃のことを思い出した。その鉄道は、現在「わたらせ渓谷鉄道」と呼ばれ、第三セクターで運営されている。渓流沿いの景勝地を走る路線は、春には桜、秋には紅葉が美しく、観光で訪れる旅行者の目を楽しませている。

つい最近のことだが、ある若者に私が以前に缶焚きの仕事をしていたと話したら、お風呂屋さんですかと聞かれた。ああ、昭和は遠くなりにけりか…。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすか かずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。

大須賀一雄「透明水彩の世界展」2017年8月3日（木）～ 8月9日（水）／東急百貨店吉祥寺店8階美術サロンで開催